

おぎさや×ありのす
企画ワークショップ
『人生の歩き方
—日本語教師編—』

いま, 改めて「日本語教師」とは

2019年9月1日(日)

真野 蟻乃典(ありのす)

イベント前半の流れ

- 巻の「日本語教師」言説
 - 「日本語教師」の現場
 - 「日本語教師」のキャリア
- 後半ワークショップへ

巻の「日本語教師」言説

- 「日本語教師は職業ではない, 生き方だ」(細川, 2013)
 - 「職業と生き方が一致しない社会」への警鐘
 - 「ことばの教師の仕事は, 職業であっても, 生き方にはなりにくい」
 - 「職業と生き方がひとつにすること, これが生きていくうえで, とても重要なこと」

巻の「日本語教師」言説

- 「日本語教師は食べていけない」(丸山, 2015, 2016)
 - 「ボランティア日本語教師の場合はもともと無報酬を建前としており, 初めからこの言説の対象外」
 - 「海外で教える場合, 派遣プログラムに関しては, 公的なものであれ私的なものであれ, 滞在中は住宅が提供されるなどまずは十分な待遇が保障されている」
 - 「日本語学校の場合, 唯一の収入源である外国人入学者の動向が社会の動きに左右され安定しない」
 - 「職業としての日本語教師から距離を置こうとする姿勢が若年層に広がり始めている」
 - 「待遇の悪さを嘆いたのと同じその口で, 現役教師が日本語を教えるやりがい・何事にも代えられぬ日本語教師の醍醐味を異口同音に語り, だからこそ教え続けるのだと話をしめくくる」
 - 「学んだ自覚があるからこそ, 何度も触れたに違いない「食べていけない」言説を越えて日本語教育の道を選ぶのである」

巻の「日本語教師」言説

- 「日本語教師を辞める人もいる」(高井, 2019)
 - 「自分らしく生きていくという自己実現の過程として日本語教師を辞めている」
 - 「日本語教員養成機関で学んでいる間に, 自分にとっての日本語を教えることの意味を考える機会や場がない場合がある」
 - 「身近にロールモデルがおらず, また, 日本語教育上の悩みを相談したり語り合ったりする人もいなかった」
- 「日本語教師をやめていく人を見ることは少なくない」(清水, 小林, 2009)
 - 「独身時代は私生活の時間を自由に仕事のための授業準備に充てられたが, 結婚して家事が加わるとそうはいかなくなってしまった」
 - 「家事と子育て中心の生活で交際範囲が限定され, 「自分が社会と切り離されていると感じる」」

巻の「日本語教師」言説

- 「ことほど左様に日本語教師やその志望者には女性が多い」(真嶋, 2001)
 - 「ある職業において性別バランスを著しく欠いている場合, 何らかの理由があるはず」
 - 「日本語教師の待遇が一般に良くないという状況で, 職業選択の基準になる条件として「生活給」が得られるかどうか」
 - 「「妻を養おう」とする男性から見れば, 職業としての日本語教師を経済的理由から敬遠する傾向がある」
 - 「彼女らは生活費のために働く必要があるのではなく, 多くは社会参加・自己充足・やり甲斐を求めている」
 - 「高給を支払えない日本語学校と年収を押しえたい主婦の利害が見事に合致する」
 - 「専門職の日本語教師を目指し, 海外へも臆さず出かけて行き, キャリアアップを図ろうとする, 比較的晩婚または非婚型の女性が増えている」

巻の「日本語教師」言説

- 「日本語教師の職は決して社会的に安定した仕事とは言えない」(末吉, 2012)
 - 「待遇面や雇用面に不満を持ちながらも, 今後も日本語教師の仕事が続けたいと思っている日本語教師は多い」
 - 「ワーキングプアとしての日本語教師」「借金をしてまで日本語教師をやりたいくない」「自分の年齢という「タイムリミット」が近づいていた」
 - 「これまで自分の情熱とお金をかけてやってきた仕事の実態を知って「ショック」を受け, 辛いような悲しいような気持ちになった」
 - 「「手に職」があれば, たとえ結婚して出産し, 仕事を離れることがあってもまた戻ってくることができる」
 - 「日本社会で比較的女性が就きやすい仕事の一つ」「日本語教師の仕事は社会的地位が低い」「長く続けるほど生活は苦しくなっていく」
 - 「日本語教師の仕事がいかにこの社会でキャリアの積みあがらない職業か」

巻の「日本語教師」言説

- 「教育人材の環境整備は遅々としている」(岡本, 2005)
 - 「20年来, 政府は教師養成内容のみで, その後の教師環境の整備を黙殺してきた」
 - 「その結果, 経験の浅い教師たちは優秀な教育能力・資質を潜在的に備えていながら, 経済的な基盤に期待が持てない日本語教育の道を断念していく者を生んでいる」
 - 「修了後に日本語教師の職に就いた者は, 2002年では大学の修了者のうちの8.9%, 一般の養成機関では受講修了者のうちの14.4%で, 平均12.7%」
 - 「国内の日本語教師の専任職にいたっては, 大学での受講修了者の1.2%, 一般機関修了者の0.5%にすぎない」
 - 「海外で職を得ようとするのであるが, 政府関係派遣であっても帰国後の身分保障はなく, 極めて不安定な仕事となる」
 - 「修了者の9割以上が日本語教育の道をあきらめている」

巻の「日本語教師」言説

- 「奨学金返済が難しいほどの給与水準」(有田, 2019)
 - 「若者たちの日本語教育離れは, 確かに起きている」「若い層の日本語教育離れの原因は多くの場合, 端的に言って, 労働条件・労働環境の悪さです」
 - 「日本語習得の意思がない「留学生」, また, 勉強の意思はあっても毎日の長時間労働によって疲労困憊して勉強に集中できない学生が, 日本語教室にいる」
 - 「日本語教師の主流はリタイアした年長者や主婦層の教師, つまり経済的基盤を別に持つ人たちであり, 売り手市場とはいいながら, 若者が日本語教育界に参入しにくいという状況」
 - 「現状ではまだ日本語教師には女性が圧倒的に多い」
 - 「「定住」せずにはすぐ帰る人たちなのだから日本語教育は必要なし, あるいは, 日本語を教えるのなら経済的基盤と時間的余裕のある人たちがボランティアでやればいい」
 - 「同じ仕事をし同じ「業界」にしながら, 互いに関係ない人たち, 見えない, 消えてしまっている, あたかもいないような存在として, 対話が成り立っていない」

「日本語教師」の現場

- 国内高等教育機関
 - 大学・大学院(国立／公立／私立)
 - 短期大学(公立／私立)
 - 高等専門学校(国立／公立／私立)
 - 専門学校(国立／公立／私立)
- 国内日本語教育機関(法務省告示日本語学校)
- 地方公共団体
- 教育委員会
- 国際交流協会

「日本語教師」の現場

- 国内公的機関

- 公官庁
- 独立行政法人
- 財団法人(一般／公益)
- 社団法人(一般／公益)
- NPO法人

- 海外教育機関

- 高等教育機関
- 中等教育機関
- 初等教育機関
- 生涯学習機関・語学学校

「日本語教師」の現場

- フリーランス
- 日本語教師養成講座
- 日本語教育アドバイザー／コーディネーター
- 地域日本語教室／ボランティア団体／任意団体
- 初等中等教育機関／外国人学校
- 出版社
- 一般企業

「日本語教師」のキャリア

- 国内日本語学校(告示校)
 - 事務職員
 - 非常勤講師
 - 専任講師
 - 教務主任
 - 校長
 - 経営者
- 海外公的機関派遣
 - 国際交流基金日本語専門家
 - JICA海外協力隊日本語教育隊員

「日本語教師」のキャリア

- 学会・研究会・勉強会・セミナーなどに参加する
- 大学院に進学する
- 「日本語を教える」以外の道を見出していく
- 「わたしにとって日本語教育とは何か」を考える
- 「教師の悩みの根源が示すのは、教師の悩みを解決するために必要なものは、一般的な教師教育での理論やアクション・リサーチでの内省ではなく、教師個人のこれまでの経験や教師が生きている社会そのものを理解する必要があるということである」(末吉, 2013)

文献

有田佳代子(2019). 職業としての日本語教師——「奨学金返済ができないから夢をあきらめます」から考える. 牲川波都季(編)『日本語教育はどこへ向かうのか——移民時代の政策を動かすために』(pp. 19-36)くろしお出版.

岡本佐智子(2005). 日本語教師養成の現状と課題『北海道文教大学論集』6, 121-135.

清水順子, 小林浩明(2009). 日本語教師をやめるに至ったのはなぜか——M-GTAによる分析『北九州市立大学国際論集』7, 15-22.

末吉朋美(2012). 日本語教師のキャリア形成——日本の社会構造における性別役割『待兼山論叢』46, 97-114.

末吉朋美(2013). 教師の悩みはどこから来るのか?——日本語教師たちとのナラティブ探究を通して『阪大日本語研究』25, 75-104.

文献

高井かおり(2019). 日本語教師の葛藤とキャリア形成——元日本語教師のライフストーリーから『明星大学研究紀要人文学部』55, 1-16.

細川英雄(2013年4月26日). 職業と生き方をひとつにするために『ルビュ言語文化教育』443.

真嶋潤子(2001). 日本語教師に女性が多いわけ. 大阪外国語大学女性研究者ネットワーク『地球のおんなたち2——20世紀の女から21世紀の女へ』(pp. 294-305)嵯峨野書院.

丸山敬介(2015). 「日本語教師は食べていけない」言説——その起こりと定着『同志社女子大学大学院文学研究科紀要』15, 25-61.

丸山敬介(2016). 「日本語教師は食べていけない」言説——『月刊日本語』の分析から『同志社女子大学大学院文学研究科紀要』16, 1-38.